

平成 30 年度中高・飯水地区小中学校教科用図書採択研究協議会

調査研究委員会 調査研究資料

中学校 特別の教科 道徳

平成 30 年 8 月

中高・飯水地区小中学校教科用図書採択研究協議会

採択基準 発行者名	光村図書出版（道徳 きみがいちばんひかるとき）
1 教科の目標からの配慮	<p>考える観点が複数示されている資料から、登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、体験的な学習などを通して、自己を見つめられるように配慮されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料ごとに内容項目と「学びのテーマ」が明示され、生徒が学習内容を自分との関わりで考えられるように配慮されている。 ・教材の巻末には、自己評価の記録を残す「私の気づき」が設けられており、自分の変化や成長を自覚できるように配慮されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等	<p>(1) 同じ内容項目を扱う教材については、生徒の生活実態や発達段階に合わせ、学年ごとに傾斜をつけた配列になっている。</p> <p>(2) 絵本や漫画形式の教材、データや複数の資料から考える教材、補充教材として小学校の定番教材など、多様な教材を示し生徒が自ら考えられるように配慮されている。</p> <p>(3) 考える観点が設けられ、複数の問いを提示して道徳的諸価値についての理解が促されるように配慮されている。</p> <p>(4) 「見方を変えて」「つなげよう」が設けられ、該当の内容項目を多面的・多角的に考えるようにとてもよく配慮されている。</p> <p>(5) 脚注や振り仮名が豊富に設けられ、生徒が読みやすいように配慮されている。</p> <p>(6) 見やすいさし絵や写真、目に優しい色の用紙が使われ、生徒が集中して学習に臨めるように工夫されている。</p>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」のバランス、関連性・連続性、個に応じた指導、まとめと評価	<p>(1) 「生命の尊さ」というテーマを重視しながら、年間を4つのまとまりに分けて構成し、多様な教材が適切に配列されている。</p> <p>(2) 各巻最終ページには内容項目、現代的な課題等との関わり、他教科・領域との関わりが一覧となっているため、教材配列を変更することができるように配慮されている。</p> <p>(3) 全学年を通していじめ問題に関連した教材とコラムが設定されており、生徒が課題をつかみ、考えを深められるように配慮されている。</p> <p>(4) 教材内容の理解を助けたり、イメージを豊かに広げたりするさし絵・図・資料などが適所に配置されており、生徒が道徳的場面を理解して自分に関わって考えやすくなるように配慮されている。</p> <p>(5) 「私の気づき」や、学期ごとのまとまりの最後に「学びの記録」を設け、授業ごとの見返しと長期的な自分の変化や成長の振り返りが扱えるように配慮されている。</p>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考え、話し合うことを学習の中心に据え、教材の読み取りに偏ることなく、発達段階に合わせて道徳的諸価値の自覚を深められる多様な教材で構成され、学習の深まりが期待される。 ・ 小学校の教材を学び直しの教材として入れたり、いじめ、情報モラルの教材とコラムとを組み合わせ設けたりするなど様々な課題を発達段階に応じて、深く考えるように配慮されている。

採択基準 発行者名	教育出版（中学道徳 とびだそう未来へ）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な内容を扱った教材や多様な形態をした教材、及び「学びの道しるべ」を活用して、生徒が多面的・多角的に考えながら友達と議論できるように工夫されている。 ・ 導入文を活用して、学習の目的及び自分の経験や考えを確認することで、道徳的諸価値の理解を深めるように工夫されている。 ・ 「学びの道しるべ」の最後の問いを活用して、自分自身に問いかけることで、自己を見つめることができるように工夫されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 取り組みやすさを重視し、短い教材など内容を精選することで、考え、議論する時間が十分に取れるように配慮されている。 (2) 内容項目ごとに導入文が記されており、この教材ではどのような価値について学習するのかが把握しやすくなるように配慮されている。 (3) 複数の発問の中に自分自身にひきつけて考える問いがあり、自己を見つめる学習展開ができるように工夫されている。 (4) 役割演技や日常体験を想起して話し合う活動が配置され、多面的・多角的に価値理解が深められるように工夫されている。 (5) 読みやすい書体や、発達段階に応じた大きさの文字が使用されており、生徒が読みやすいように配慮されている。 (6) 生徒のイメージを広げる絵や写真が配置されるなど、教材内容の理解を助けるように配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」のバランス、関連性・連続性、個に応じた指導、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生命、差別、情報といった重点テーマについては、各学年の発達段階や特性を踏まえられるように配慮されている。 (2) 補充教材が巻末に4～5つ用意され、地域や学校、生徒の実態や教師の願いなどに合わせて弾力的に活用したり、発展的な学習をしたりすることができるように配慮されている。 (3) いじめ、生命倫理、情報モラル、社会参画といった現代的な課題について、複数の内容項目から、多面的・多角的に考え学習できるように工夫されている。 (4) 視覚的に生徒の興味・関心を喚起する漫画や絵本を用いた教材など、読むことだけに頼らず、生徒が話し合いに参加しやすいように配慮されている。 (5) 学期ごと、心に残ったことや友達と考え合ったことなど、自分の学びを振り返ったり、内容項目ごとの学習を通して生徒がもった実感を表現したりできるようなページが巻末に用意されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容項目ごとに導入文や複数の発問が設けられ、ねらいを明確にして様々な学習展開を用意することで、考え、議論する道徳が実現できるように配慮されている。 ・ 様々な内容を扱った教材や多様な形態をした教材を基に、生徒が自分自身と向き合い、友達と意見を交流し深めていくように工夫されている。

<div style="text-align: center;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">東京書籍（新しい道徳）</div>
1 教科の目標からの配慮	<p>教材ごとに考え、議論する学習ができるような流れで構成され、漫画を使用した導入や役割演技など、様々な指導形態が工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「つぶやき」コーナーを設け、道徳的諸価値について考えたり、思ったことを書き込んだりできるように工夫されている。 ・ 2色の割合で葛藤を表す心情円があり、自分や友達的心情を可視化でき、多面的・多角的に考え話し合えるように工夫されている。
2 生徒の学習活動への配慮 <input type="checkbox"/> 内容の程度 <input type="checkbox"/> 学習活動への誘意性	<p>(1) 内容項目について題材に連続性をもたせ、学年を追って深く考えられるように配慮されている。</p> <p>(2) 冒頭にさし絵や写真、漫画の一部を掲載するなど親しみやすく、主題に関しては問いかけの言葉があり、問題を見つけたり、把握できたりするように工夫されている。</p> <p>(3) 「ACTION」では、役割演技や体験的活動が設定され、主体的に道徳的諸価値が捉えられるように工夫されている。</p> <p>(4) 考え、議論する学習ができるように巻末にホワイトボード用紙があり、自分や友達の意見を書き込めるように工夫されている。</p> <p>(5) 設問や学習のヒントについての表記は、文節の区切りで改行し、文の意味を捉えやすいように配慮されている。</p> <p>(6) 見やすく分かりやすい、シンプルなデザインの紙面で、学習に集中できるように配慮されている。</p>
3 学習指導への配慮 <input type="checkbox"/> 単元・題材の配列 <input type="checkbox"/> 内容の扱い	<p>(1) 発達段階に応じて環境問題や情報モラル、生命倫理、持続可能な社会の形成等について扱うように配慮されている。</p> <p>(2) 必修を30教材、付録を5教材設定し、学校の実態に合わせて柔軟な指導ができ、重点項目については、繰り返し学習できるように配慮されている。</p> <p>(3) いじめやいのちについて、複数の教材を組み合わせることで、生徒が多面的・多角的視点から考えられるように工夫されている。</p> <p>(4) 教材の内容に関連する漫画の一部を掲載し、導入の際に使用することで、教材への興味・関心を高め、学習にスムーズに入っていくことができるように工夫されている。</p> <p>(5) 感じたことや考えたことを自由に書き込んで残すことができるコーナーや、学期ごとに切り取りができる自己評価用紙が収録されており、評価に役立てられるように工夫されている。</p>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巻末の心情円は、自分の気持ちを割合で表せ、ホワイトボードは、自分や友達が意見を書くことにより、様々な人と交流し、自分の考えを深められるように工夫されている。 ・ 各教材の冒頭に、問題の提起から導入できるように配慮されており、生徒が問題を見つけたり、把握できたりするように工夫されている。

採択基準 発行者名	日本文教出版（中学道徳 あすを生きる）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的諸価値が明示され、考え、議論するための発問や幅広いテーマが工夫されており、生徒が道徳的諸価値を深く考えていけるように配慮されている。 ・問題解決的な学習やグループでの話し合いなど様々な学び方が明示されており、多面的・多角的に考えられるように工夫されている。 ・「自分にプラス1」の発問を設け、道徳的諸価値の理解が生徒自身の日常生活に生かせるように工夫されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 小中連携も考慮し、系統的・発展的な学習になるよう各学年にテーマを設定し、学校での諸活動に応じて教材が配列されている。 (2) 生徒に身近な人物や各教科での活用を意識したコラムを取り入れたり、現代的な諸課題を取り上げたりすることで、物事を広い視野から考えられるように工夫されている。 (3) 教材のねらいに迫る発問に加え、自分に生かせる発問が示され、生徒が道徳的諸価値を深められるように工夫されている。 (4) 深く楽しく考え合えるように、問題解決的な学習、体験的な学習の進め方を示し、活動をイメージしやすいように配慮されている。 (5) 漢字の表記による読みの抵抗を少なくし、色の組み合わせなどに配慮されている。 (6) 写真や図版を大きく鮮明にするなど、ページ構成を工夫し、学習意欲を促すように配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」のバランス、関連性・連続性、個に応じた指導、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 日常生活や学校生活、学校行事と関連させて計画的に考えられるよう、身近な教材や幅広いテーマが適切な時期に配列されている。 (2) 他教科の学習内容との関連、学校行事の実施時期などとの関係を考慮して教材が配列されているとともに、地域や家庭生活とのつながりも意識しながら授業が展開できるように工夫されている。 (3) いじめを自分たちの問題として考えるために、いじめと向き合う資料を複数明示し、直接的・間接的教材と体験的学習などを組み合わせ、学習がさらに深められるように配慮されている。 (4) 写真やさし絵などの図版を資料として活用できるように、大きさや簡潔さが十分吟味されているとともに、資料と重ね合わせて考えられるように、レイアウトが工夫されている。 (5) 1教材1ページの道徳ノート(別冊)で、生徒が自分自身の学びの積み重ねを実感できるとともに、教師が生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取ることができるように配慮されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の見出しに主題名を明示することで、生徒が見通しをもって学習し、図や写真を活用して自分から学習を深められるよう、教材や学習の進め方などに配慮されている。 ・道徳ノート(別冊)には、自分の考えや友達の発言を記入するほか、「前向きに自分にいかす」記入欄を設けたり、家庭との連携も図れたりするような工夫がされている。

採択基準 発行者名	学校図書（輝け 未来）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・独自の視点「命／人・社会／自然／世界・文化」を軸に教材を選定し、考え、議論させる発問を据えることで、生きることへの見方、考え方が深まるように工夫されている。 ・重要と考える現代的課題を10個のアイコンで示し、見通しをもって友達と考えを深め、自己を振り返られるよう配慮されている。 ・内容項目ごとに22の「心の扉」が設置され、示された視点を基に、生徒の道徳の価値理解が深まるように配慮されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等	(1)中学生の発達段階に応じて、発問内容や「心の扉」の記載内容を深化させていくよう配慮されている。 (2)各学年の冒頭に「道徳の学習をはじめよう」や「学級づくり」が位置付けられ、授業で大切にしたいことを共有したり学年に応じて信頼関係や人間関係を醸成したりするように工夫されている。 (3)発問「見つめよう」では、生徒と実生活をつなげて考えさせることで、自分との関わりの中で価値が深まるように工夫されている。 (4)「学びに向かうために」の発問で、意見交換や役割演技をしたり、問題を出したり、考え合ったりするように工夫されている。 (5)大きめの文字が使用されており、生徒が読みやすいように配慮されている。 (6)さし絵や写真は、大きさや配置など、教材の内容理解に役立つように工夫されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」のバランス、関連性・連続性、個に応じた指導、まとめと評価	(1)先人の姿、新聞記事、漫画の特徴を生かした教材など、多様な教材や資料が配列されている。 (2)学校行事や部活動など生徒に身近な教材、地域や他教科との連携を図った教材が配列され、学校独自の行事等と関連させながら指導計画を作成できるように工夫されている。 (3)現代的な課題については、情報モラル、環境、直接的ないじめや、いじめとなり得る日常生活の教材などが全学年で扱われ、いじめを起ささない・許さない心情が育つように工夫されている。 (4)写真やイラストが各教材の見開きページのほとんどに配置されており、話の展開や内容、叙述が理解しやすくなるように工夫されている。 (5)「学びの記録」が位置付けられ、授業の学びや心の動きを記入することで、生徒自身が自己の変容を自覚することができるように工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教材に「意見交換」を促す発問を置き、多面的・多角的な思考・判断・表現の場を設け、主体的な学びを通して、道徳的諸価値に迫る深い理解ができるように配慮されている。 ・学年内においては、1年間を夏休みと冬休みで区切る3つの期間に分け、それぞれの期間で四つの視点をバランスよく学べるように工夫されている。

発行者名 採択基準	学研教育みらい（明日への扉）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・教材中に主題名を明示しないことにより、生徒が課題を発見し、課題を解決する資質や能力を養うことができるように配慮されている。 ・1つのテーマで2つの教材を連続して配置し、異なる視点や内容項目から、多面的・多角的に考えが深まるように工夫されている。 ・授業で「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を明確にし、見通しをもって学べるように工夫されている。
2 生徒の学習活動への配慮 <input type="checkbox"/> 内容の程度 <input type="checkbox"/> 学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 3年間の発達段階や特性を考慮し、1年では小学校との接続を意識した教材を入れ、学年に応じた教材の配置が工夫されている。 (2) 様々な分野で現在活躍している人、功績を残した先人、全国の自然や話題について多数掲載され、関心・意欲を引き出し、身近な題材からモデルとなる生き方について学べるように工夫されている。 (3) 「クローズアッププラス」では、自分の経験や考えを問う発問があり、自分自身を振り返って考えられるように工夫されている。 (4) 「クローズアッププラス」「深めよう」では、体験的な学習やペアやグループによる話し合いができるように工夫されている。 (5) 全ての教材が右ページから始まり、A4判のゆとりのある紙面で、読みやすさを重視した改行になるように配慮されている。 (6) 大きく見やすい書体や色使いをし、読み違いが起りにくいように配慮されている。
3 学習指導への配慮 <input type="checkbox"/> 単元・題材の配列 <input type="checkbox"/> 内容の扱い 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」のバランス、関連性・連続性、個に応じた指導、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) スポーツや情報モラルや防災教育など、現代的課題についての教材が配列されている。 (2) 家族に関わる教材や卒業生が中学時代を回想した教材など身近な話題が取り上げられ、巻末には教材と他教科との関連が示され、生活の中にも生きてくる道徳が展開できるように工夫されている。 (3) 生命尊重といじめ防止につながるテーマとして、自己肯定感を高める内容、アンガーマネジメント、メンタルトレーニングを取り入れ、多様な教材から考えられるように工夫されている。 (4) さし絵、写真、漫画、表、グラフといった多種の視覚的資料が豊富にあり、心情理解の深まりや道徳的諸価値の追求につながれるように工夫されている。 (5) 巻頭と巻末の自分を見つめるページや「深めよう」では、教科書に自分の考えが直接書き込めるようになっており、自己の学びの成長を自覚できるように工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・教材中に主題名を明示しなかったり、発問を精選したりするなど、学級の実態に応じて工夫することができるように配慮されている。 ・生命尊重を重点テーマとし、様々な内容項目の教材を用いて複数の観点から命の大切さを考えることができるように工夫されている。

発行者名 採択基準	廣濟堂あかつき（中学生の道徳・中学生の道徳ノート 自分を見つめる1・自分を考える2・自分をのばす3）
1 教科の目標からの 配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に取り組めるように、全ての教材で本時のめあてを示し、さらに様々な視点からの問いかけを示して、多面的・多角的に考えたり議論したりすることができるように配慮されている。 ・自主自立、生命尊重、思いやり、よりよく生きる喜びを重点項目とし、3学年を通して各3時間、3教材が配当されている。 ・道徳ノートには道徳的諸価値の解説と関連した資料を掲載し、生徒が自己と向き合いながら考えられるように工夫されている。
2 生徒の学習活動への 配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意 性 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等 </div>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 著名人の伝記や実話が多数掲載され、生徒の追求する意欲を刺激する内容となるように配慮されている。 (2) 「考える・話し合う」には、登場人物の行為から心情を想像する発問、登場人物の行為に見られる道徳的諸価値に思いを寄せる発問、さらに自らに関わって考えさせる発問が用意されている。 (3) 自分との関わりで考えられるように、問題解決的な学習や調べ学習などを促す問いが用意されている。 (4) 問題解決的な学習を促す教材として、異なる立場の資料などが掲載され、多面的・多角的に考えられるように工夫されている。 (5) 生徒の発達段階に応じて本文の文字サイズを配慮するなど、生徒が学習に向かえるよう工夫されている。 (6) ワイドなA B判でさし絵や写真が大きく示されており、見やすい紙面になるように配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」のバランス、関連性・連続性、個に応じた指導、まとめと評価 </div>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生命尊重を最重点項目として位置付け、関連のある他の内容項目とともに、多様な教材が配列されている。 (2) 道徳ノートには、職場体験や裁判員制度など他教科の学習とも連携を図りながら活用できるように、配慮されたページが設けられている。 (3) いじめに関して、生徒が状況を想像しやすい場面を題材にしており、生徒自身が主体的に考えたり、学級全体で話し合ったりしやすいように、複数の資料とともに配置されている。 (4) 写真やさし絵を通して考えたり話し合ったりできるように、心情や状況が分かる適切なものが配置されており、学習指導の上で工夫しやすいように配慮されている。 (5) 道徳ノートは、それぞれの道徳的諸価値を全ての学年で同じページに掲載することで、単年としての記録だけでなく3年間を通した心の成長が見取れるように工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・「考える・話し合う」には本時のめあてとともに、登場人物を通して道徳的諸価値について自身と関わって捉えられるような発問も示され、主体的に考えられるように工夫されている。 ・道徳ノートには、発達段階に応じて道徳的諸価値の理解が深まるように解説文が掲載されており、記述欄に生徒自身の考えを書くことで、生徒も教師も成長の過程を捉えられるように工夫されている。

採択基準 発行者名	日本教科書（道徳 中学校1 生き方から学ぶ / 道徳 中学校2 生き方を見つめる / 道徳 中学校3 生き方を創造する）
1 教科の目標からの 配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然と生徒が考え、議論が始まるように、中学生の発達段階での自己の判断基準となる道徳的価値観を形成し、答えが1つではない教材内容と、生徒の思考を揺さぶる問いが工夫されている。 ・ 身近な話題の教材を多く盛り込み、登場人物の心の葛藤や悩みを共有して、道徳的諸価値の理解を深めるように工夫されている。 ・ コラムやワークシートが準備され、自分の考えを広げたり深めたり、自分自身と向き合ったりするための活動が工夫されている。
2 生徒の学習活動への 配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意 性 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 3年間連続したストーリーの中で自分に置き換え、直面する悩みや葛藤を共に考えられるように工夫された教材が用いられている。 (2) 先人、著名人の体験や夢から自己の生き方を見つめ直したり、図・絵のみで構成された教材から、物事を多面的・多角的に見たり、考えたりして、多様な価値観を受容するように工夫されている。 (3) 発達段階を踏まえ、1年は自己理解、2年は自己啓発、3年は自己実現をテーマにした他領域とつながる教材が配置されている。 (4) 生徒が自然と考える教材の仕掛けや、生徒の思考を揺さぶる結びの問いを配置して、議論を促す工夫がされている。 (5) 文字の大きさや行間、人物や語句を説明した脚注の配置など、見やすさや理解のしやすさが配慮されている。 (6) さし絵や写真が大きく鮮明であり、文章理解の補助として、また関心を寄せるきっかけとして、効果的に配置されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」のバランス、関連性・連続性、個に応じた指導、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 教科書の配列順にとらわれず、実情に応じて教材を生かせるように学習指導要領の内容項目順に4章37教材が配置されている。 (2) 身近な生活体験や事象の他に、全国各地の教材や現場の教師が執筆したオリジナル教材が多数あり、生徒の実態や興味・関心に合わせて教材を扱えるように配慮されている。 (3) いじめを正面から取り上げた教材の他に、生命とは何か、その尊さを守るためにはどのように考えればよいかなど、生命尊重の学びを深める教材が多数配列されている。 (4) 道徳的諸価値への生徒の興味・関心や、教材内容の状況把握、心情理解につながる親しみやすいさし絵や写真、図が1教材に2～3枚配置されている。 (5) 学年にわたって教材に連続性をもたせて自分の成長と重ねたり、巻末に自分の心の成長を振り返る自己評価ワークシートを設け、自分が育んだものを確認できたりするように配慮されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正義、寛容、人権、人間愛など扱う様々な教材で、生命を尊ぶ態度の育成が目指され、友情・信頼や生命尊重に関わる教材を多く載せて、思いやる心を育むように工夫されている。 ・ 道徳教育の系統性と体系化を考慮し、各校の実状に応じて年間指導計画が立てられるように学習指導要領の内容項目順に教材が配列され、学年間と他教科・領域との繋がりが配慮されている。